

# R2年度 学校自己評価のまとめ

学校グランドデザインを基にした家庭・生徒・職員・外部アンケートより

〈アンケート総数〉 全 658 件

## アンケート提出数・率

【保護者/家庭数219】	【職員】	【生徒】	【外部】
小学部 54 家庭 87%	小学部 25 人 100%	小学部 11 人	福祉 62 人
中学部 44 家庭 80%	中学部 26 人 100%	中学部 16 人	教育行政 15 人
高等部 71 家庭 71%	高等部 34 人 92%	高等部 63 人	小学校 48 人
全校 169 家庭 77%	つくし 11 人 92%		中学校 105 人
	分教室 15 人 100%		高校 1 人
	寄宿舎 22 人 100%	全校 90 人	企業 8 人
	支援室 14 人 100%		その他 3 人
	*多職種 10 人 100%		全体 242 人
	全校 157 人 97%		

\*上記教職員以外で学校を支える多職種の職員

伊那養護学校

## 〈総合評価〉

・本年度は、新型コロナの影響で例年通りに行えないことが多く、児童生徒や保護者の皆さん、関係機関の方々にはご心配やご迷惑を多々おかけしたことと思います。そんな中でしたが、本年度も多くの項目で様々な立場の皆さんから引き続き高い評価をいただいたことは、我々学校職員にとっては大きな励みとなりました。いろいろ制約がかかる中、行事や授業そのものについても、本当に大切なものは何かという、物事の本質を考える機会になりました。本年度の経験、評価を来年度以降の学校経営に生かしていきたいと思えます。

・本年度は、外部からの評価が学校、福祉関係者を中心に70近く増えています。本校のセンター的機能や、副学籍校交流、巡回相談などを通して本校への期待の高まりと受け止めています。より一層外部の方とも連携を深め、本校の在り方を多角的に評価していただき、その結果に真摯に向き合っていきたいと思えます。

# I 学校教育目標「自分から自分で精いっぱいそしていっしょに」

5: と思う 4: 少し思う 3: どちらでもない 2: あまり思わない 1: 全く思わない

アンケート質問事項		前変 年化	評価 平均	5	4	3	2	1
学校教育目標	家庭 お子さんは 学校へ行くのを楽しみにしている(自分から、自分で)	▼	<b>4.5</b>	124	20	18	5	2
		R1	4.6	130	27	14	1	3
	家庭 お子さんは 学ぶ場として 伊那養で精いっぱい取り組めている(精いっぱい)	▼	<b>4.5</b>	119	29	15	3	2
		R1	4.7	130	33	7	1	2
	家庭 お子さんは学校でみんなとかかわりながら学習や活動を楽しんでいる(いっしょに)	▼	<b>4.5</b>	114	32	15	4	2
		R1	4.6	123	37	7	1	2
	生徒 学校は楽しい	△	<b>4.5</b>	64	14	6	4	2
		H30	4.4	62	24	7	4	2
	生徒 伊那養に入学してよかったと思っている	▼	<b>4.5</b>	65	9	14	1	1
		R1	4.6	74	17	9	0	2
生徒 伊那養に友だちがいる		<b>4.5</b>	65	16	4	1	4	
	R1	4.5	69	21	7	3	1	
職員 担任している児童生徒は 『自分から、自分で、精いっぱいそしていっしょに』の学校生活を送ることができている		<b>4.3</b>	62	71	12	0	0	
	R1	4.3	61	81	14	2	0	
職員 学校グランドデザインの重点目標や具体的取り組みは 児童生徒の願いや学びを支えるものとなっている		<b>4.3</b>	69	57	19	2	0	
	R1	4.3	63	69	17	0	0	
外部 子どもたちは、伊那養へ通うことを楽しみにしている	▼	<b>4.6</b>	141	47	24	0	0	
	R1	4.7	97	20	11	0	0	
外部 学校教育目標「自分から自分で精いっぱいそしていっしょに」は、伊那養にあっている		<b>4.7</b>	193	43	16	0	0	
	R1	4.7	105	18	10	0	0	
評価の受け後のめ方と針	<p>・学校教育目標について、本年度は新型コロナウイルス感染症の影響もあり、活動や行事が大きな制限を受けた中、家庭や児童生徒からは、すべての項目で4.5と概ね高い評価をいただきました。また多くの職員が、「児童生徒は主体的に学校生活を送っている」と評価しています。これらから、本校では学校教育目標や学校グランドデザインにそって、児童生徒に合わせた「自分から自分で精いっぱい」取り組む生活づくりができていると考えます。しかしながら、昨年度より評価を下げている項目もあり、より一層、児童生徒たちにとって通いたい学校、保護者の皆さんにとっても通わせたい学校になっていくよう、今後も学校目標の具現に向かい児童生徒が主体的に活動し満足する生活づくりを大切にしていきます。</p> <p>・「学校に行くことを楽しみにしている」「伊那養に入学してよかったと思っている」「伊那養に友達がいる」という質問に対して家庭や児童生徒から1の評価がありました。家庭の声を各部や支援チームで見返し、今後の学校運営に反映させていきます。また、1と評価した児童生徒には学校長が面接をし、学習面や人間関係での悩みを聞き取りました。各部や学級で児童生徒の悩みを共有し個別相談を実施しています。児童生徒の思いに丁寧に寄り添うことを大切にされた学校運営をしていきます。</p> <p>・他校の先生方や福祉関係の方など多くの外部の方からも、伊那養の子どもたちは学校へ楽しく通っていると評価をいただきました。今後もさまざまな機関や立場の方と連携しながら学校教育の充実を図っていきます。</p>							

## Ⅱ 学校のベース「人権・連携・安全・安心・防災」

5: そう思う 4: 少し思う 3: どちらでもない 2: あまり思わない 1: 全く思わない

アンケート質問事項		前 変 年 化	評 価 平 均	5	4	3	2	1	
人権・いじめ	家庭	人権に配慮した支援がなされている	△	<b>4.8</b>	135	25	8	0	0
			R1	4.6	129	27	10	3	2
	生徒	困ったときに相談できる人(親・友だち・先生)がいる	▼	<b>4.5</b>	62	16	6	3	3
			R1	4.6	72	18	4	3	1
	職員	児童生徒に対する支援や対応は人権に配慮したものとなっている		<b>4.3</b>	61	70	14	2	0
			R1	4.3	59	73	18	1	0
	家庭	いじめや体罰がない学校環境となっている	△	<b>4.7</b>	133	24	9	1	0
		R1	4.6	125	32	12	1	1	
生徒	伊那養には体罰やいじめはないと思う	▼	<b>4.2</b>	50	16	18	2	3	
		R1	4.4	68	12	14	5	2	
職員	児童生徒は、いじめや体罰のない学校であると感じている	△	<b>4.4</b>	68	66	11	2	0	
		R1	4.3	72	66	17	1	0	
チーム・連携	家庭	学校・部・学級の職員が連携して、子どもの支援に取り組んでいる		<b>4.6</b>	122	29	14	2	1
			R1	4.6	114	44	12	2	1
	職員	伊那養は同僚とチームになって、指導・支援に向かっている		<b>4.0</b>	43	72	26	5	1
		R1	4.0	50	61	29	7	1	
職員	伊那養は、非違行為のない、同僚性のある職員集団となっている		<b>4.3</b>	62	65	17	3	0	
		R1	4.3	68	67	16	5	0	
信頼関係	家庭	担任とは、十分に連携でき、安心感・信頼感がある	△	<b>4.7</b>	131	24	9	1	3
			R1	4.6	128	28	11	1	3
	家庭	学校は、家庭の思いに寄り添い、誠意を持って応えている	△	<b>4.7</b>	137	21	7	2	1
		R1	4.6	127	35	8	2	1	
職員	家庭とは十分に連携できている(信頼関係が築けていると感じる)		<b>4.1</b>	36	90	20	1	0	
		R1	4.1	44	82	24	5	0	
安全・安心・防災	家庭	学校の施設・設備や遊具は安全で使いやすいものになっている	△	<b>4.2</b>	80	55	24	5	2
			R1	4.0	55	63	45	9	0
	職員	児童生徒にとって学校の施設・設備や遊具は安全で使いやすいものになっている	△	<b>3.2</b>	8	44	62	31	2
			R1	3.1	9	43	56	41	5
	家庭	学校は、保護者や地域と連携して防災に取り組んでいる	△	<b>4.4</b>	92	51	20	3	0
		R1	4.2	78	60	29	3	2	
職員	* 校内安全体制の確立 ・防災教育(避難訓練・引渡訓練等を含む) ・施設設備管理、防災体制 ・支援の引継ぎ(担任間・部間等) ・緊急時対応(アレルギー、摂食、医ケア等) ～学校GD:Ⅲ「学校生活づくりの充実」(2)安心安全な学校づくり～	新	<b>4.0</b>	33	82	28	3	0	
職員	* 災害時応援協定をもとに ・防災備蓄品、福祉避難所のあり方研究 ～学校GD:Ⅳ「地域と連携した学校生活づくり」(3)地域と連携した防災の取組より～	新	<b>3.7</b>	23	63	56	4	1	
評価の受け後のめ方と針	<p>・人権などに関わる項目について、家庭からは昨年度以上に「人権に配慮した支援がなされている」「いじめや体罰がない学校だ」という評価をいただきました。児童生徒の「困ったときに相談できる人がある」という評価が昨年度よりも下がり、1をつけた児童生徒が3人に増えています。校長面接や担任との相談を実施していますが、つらい思いをする児童生徒がいなくなるよう、常に児童生徒一人一人の心身の状況に気を配り、担任や学級職員だけでなく学校全体でチームとして全員の児童生徒たちに関わっていきます。</p> <p>・信頼関係に関わる項目で、家庭から高い評価をいただきました。コロナ禍で大変な一年でありましたが、休校中も家庭と密に連絡をとらせていただき、できるだけ児童生徒や家庭の思いに寄り添う学校運営を心掛けてきました。また、多くの制限がかかる中でも、最大限の工夫を重ねながら、どんぐりまつりや各部の修学旅行など、多くの行事を児童生徒とともに、保護者のご協力のもと行うことができたのは大きな成果であったと考えています。</p> <p>・安全・安心・防災については、すべての項目で昨年度より高い評価をいただきました。古い校舎ではありますが、児童生徒にとって学校が安全な場で、安心して過ごせる場でありたいと思い、敷地内へ自由に部外者が入りにくい環境を整えるための中門の設置、衛生面への配慮からつくしプレイルームの床マット張替、安全に思い切って遊ぶための大型遊具の新設、歩行者と車いす利用者等の衝突を防ぐための校内カーブミラー設置、昨年度の台風19号での倒木や近隣の松くい虫被害に対応するためのどんぐり林やどんぐりの杜の赤松を中心とした危険樹木の伐採など、環境整備を行ったり、職員の安全意識向上のための校内研修を行ったりしてきました。今後は、緊急時の対応について、登下校時の対応や、引き渡し訓練などを通して家庭と確認しながらさらに実効性のあるものを一緒に考えていきます。</p>								

### Ⅲ 学校像1:様々な人といっしょに力を発揮し育つ学校

#### 「学校生活づくりの充実」

#### (1)学習指導要領に基づいた学校生活づくり

#### (2)安心安全な学校づくり ※一部をⅡ学校ベース「安心・安全」項目へ

5: そう思う 4: 少し思う 3: どちらでもない 2: あまり思わない 1: 全く思わない

アンケート質問事項		前変 年化	評価 平均	5	4	3	2	1
個別 指導 計画	家庭 個別の指導計画には、子どもや保護者の願いが反映されている		<b>4.7</b>	124	35	7	0	2
		R1	4.7	130	35	3	1	2
	家庭 個別の指導計画に沿って、日々の授業が実践されている	△	<b>4.7</b>	119	43	4	1	1
		R1	4.6	117	42	9	2	1
職員 個別の指導計画を元にした指導と評価 ～学校GDより～ ・自立活動の観点の明確化(何のために学ぶのか) ・具体的な評価と説明責任(何が身についたのか)		新	<b>4.0</b>	33	80	31	3	0
学習 内容	家庭 部・学級の日課や授業内容はお子さんに合っている	▼	<b>4.5</b>	107	37	19	3	1
		R1	4.6	113	44	12	3	0
	家庭 友だちや先生と関わりながら活動できる学習や生活が工夫されている	▼	<b>4.6</b>	118	37	9	2	1
		R1	4.7	127	34	9	1	1
生徒 伊那養の勉強や生活は自分のためになると思う	▼	<b>4.4</b>	56	16	15	2	1	
	H30	4.5	65	18	10	2	2	
職員 「生活を中心とした教育」 ～学校GDより～ ・子ども主体の教育活動(主体的な学び) ・仲間や教師と共に学ぶ(対話的な学び) ・その子らしい学びの追求(深い学び)		新	<b>4.1</b>	38	84	23	1	0
学習 計画	家庭 小→中→高の発達段階に応じた学習や支援が積み重ねられている	△	<b>4.4</b>	98	44	16	6	3
		R1	4.3	87	51	25	1	4
	家庭 将来の社会生活につながる学習が展開されている		<b>4.4</b>	100	45	17	2	3
		R1	4.4	101	49	19	2	1
外部 子どもたちは、自分なりの自立や将来につながる力をつけている		新	<b>4.7</b>	138	62	4	0	0
職員 年間指導計画(シラバス)の作成 ～学校GDより～ ・教科指導内容との関連性(何を学ぶのか) ・活動の位置づけ、工夫(どう学ぶのか) ・ねらいの明確化(何ができるようにするのか)		新	<b>3.8</b>	22	76	44	5	0
子ども 理解・ 研修	家庭 担任は、お子さんを理解し、特性に応じた支援をしている		<b>4.7</b>	130	29	6	1	2
		R1	4.7	134	30	6	2	0
	生徒 担任の先生は 自分のことをわかってくれる	▼	<b>4.4</b>	57	21	5	3	4
		R1	4.5	69	19	10	0	2
	外部 職員は、子どもたちの障がいや特性を理解し適切な指導や支援ができています	▼	<b>4.5</b>	160	60	21	5	2
		R1	4.6	96	27	8	1	1
家庭 学校は、家庭のニーズに応える講演会や研修会などを企画している		<b>4.3</b>	91	42	24	4	2	
	R1	4.3	84	57	20	3	2	
職員 特別支援学校の専門性向上 ～学校GDより～ ・支援の専門性向上(児童生徒理解、OJT、研修) ・校内教育支援委員会の機能化(就学、支援) ・自立活動チームとの連携(個別の指導計画、研修) ・支援の連携(担任間、部とグループ、本校と分教室)		新	<b>4.0</b>	33	82	28	3	0
評価 の 受 今 後 の め 方 と 針	<p>・個別の指導計画についてご家庭から「個別の指導計画には、子どもや保護者の願いが反映されている」、「個別の指導計画に沿って、日々の授業が実践されている」といった項目で高い評価をいただきました。本年度は学校研究として個別の指導計画の見直しを行い、適切な児童生徒の実態把握から個別の指導計画を作成し、具体的にその場面ではどんな願いに向かうためにどんな支援を行うのかを明確にしたうえで授業を行い、一人一人の育ちの姿を具体的な行動の変容で追うことを目指してきました。この2つの項目で高い評価をいただいたことは、重点的な取り組みに対して高い評価をいただいたということであり大変うれしく思います。これからも、個別の指導計画でご家庭と確認した内容に沿って、より充実した教育活動を提供できるよう職員一同研鑽を積んでいきます。</p> <p>・学習計画の「小→中→高の発達段階に応じた学習や支援が積み重ねられている」について、昨年度より高い評価をいただきました。本年度は、進学してきた児童生徒について、本校の内部進学生、他校からの進学生を問わず、発達段階や今まで行ってきた学習内容や支援内容を十分に把握し、系統性や連続性を大切にしながら、よりスムーズに安心して進学後の生活に移れるよう配慮を行ってきました。新型コロナウイルス感染症の影響で、年度当初の生活づくりに困難さのあった本年度ですが、全体とすると多くの児童生徒がスムーズに新しい生活に移行できたことがうかがえます。しかし、全体の評価は上がっているものの、1と2の低い評価を合わせると微増しています。一人一人全員が安心して満足して進学や進級ができるよう、校内連携体制を整えていきます。</p> <p>・学習内容、学習計画としては、昨年度より若干評価は厳しくなったものの、全体とすると高い評価をいただいています。本年度より小学部が、来年度より中学部が新しい学習指導要領にのっとった新しい学力観に基づいた学習を展開していきます。高等部については2022年度入学生より順次移行していきます。特別支援学校にも、小学部でプログラミングや中学部で武道など新しい学習内容が入ってきます。楽しみにしててください。</p>							



## Ⅳ 学校像2:地域といっしょに歩む学校

### 「地域と連携した生活づくり」

#### (1) インクルーシブな教育の推進

#### (2) 地域とのさらなる連携

#### (3) 地域と連携した防災の取組→Ⅱ「安全・安心・防災」項目へ

5: そう思う 4: 少し思う 3: どちらでもない 2: あまり思わない 1: 全く思わない

アンケート質問事項		前変 年化	評価 平均	5	4	3	2	1	
分 教 室	家庭	分教室は、地域での存在感や同世代の仲間とのつながりを築き、 地域や設置校と連携した教育を行っている	▼ R1	<b>3.7</b> 3.8	40 46	27 40	62 60	2 5	5 1
	職員	分教室での教育の充実 ～学校GDより～ ・分教室の施設設備(はなも第2教室など) ・友組10周年(今後のビジョン) ・分教室と設置校の連携推進 ・分教室と本校の連携推進(児生交流、職員交流)	新	<b>4.1</b>	40	77	26	2	0
副 学 籍 ・ 交 流	家庭	副学籍制度により、 地元校での存在感や仲間とのつながり、交流活動は充実してきている	▼ R1	<b>3.4</b> 3.5	35 38	25 43	76 59	5 15	14 9
	家庭	交流校(西箕輪小・西箕輪中・長谷中・上農高)との交流活動は充実している	▼ R1	<b>3.7</b> 4.0	36 58	46 56	55 46	4 6	5 1
	職員	副学籍制度の充実、地域校との交流 ～学校GDより～ ・交流の充実と啓蒙推進 ・地域での学びの場としてのあり方	新	<b>3.9</b>	32	77	32	4	0
地 域 連 携	家庭	学校は、支援会議を通して、福祉・医療機関や市町村などと連携し、 家庭の相談やニーズに応え、計画的な支援を行っている	▼ R1	<b>4.4</b> 4.4	95 94	41 52	25 21	4 1	0 2
	外部	伊那養は、地域(諸機関や人々)と連携して、子どもたちへの教育や支援ができています	新	<b>4.5</b>	161	74	19	4	0
	外部	伊那養は、上伊那での特別支援学校のセンター的な役割を果たすことができています	▼ R1	<b>4.5</b> 4.6	168 93	67 31	22 13	4 1	0 0
	職員	かみとくれんを中心とした地域資源との連携強化 ～学校GDより～ ・研修会の企画、運営 ・他校や他地域との連携 ・医療や福祉、行政との連携	新	<b>4.0</b>	36	71	38	2	0
	職員	学びの場の連続性 ～学校GDより～ ・就学相談、教育相談、支援会議の充実 ・巡回相談の充実(センター的機能)	新	<b>4.2</b>	42	83	18	1	0
地 域 資 源	家庭	学校からのお便りやホームページ等で、学校の様子が伝わっている	△ R1	<b>4.6</b> 4.5	115 104	38 48	9 17	1 2	2 1
	家庭	地域のボランティアを教育活動に活用している(伊那養サポーター制度)	▼ R1	<b>4.0</b> 4.3	66 86	46 53	42 28	5 2	3 2
	職員	地域資源の活用 ～学校GDより～ ・地域で学ぶ、地域と学ぶ、地域への発信	新	<b>3.8</b>	25	70	46	5	0
評 価 の 受 今 後 の め 方 と 針	<p>・分教室についての項目は、例年、3と評価される方が多い状況です。これは、分教室の状況がよく分かっていないので評価が難しい、という評価ではないかと考えています。伊那養護学校は、小中高すべての部に分教室のある数少ない養護学校の一つです。特に今年は駒ヶ根市立東中学校内にある中学部友組10周年記念式典が行われた節目の年でした。しかし、本校に通う児童生徒やその保護者の方には分教室やその活動について充分にお伝えすることができてこなかったかもしれません。2年後に控えた、上伊那農業高校内にある高等部中の原分教室10周年に向けても、より一層の情報提供をしていきますので楽しみにしててください。</p> <p>・副学籍交流や提携校との交流、地域との交流についての項目は、全体に評価が上がリませんでした。新型コロナウイルス感染症の影響で、計画通りにいかないことが多く、残念に思われた児童生徒や保護者の皆さんも多かったと思います。小中学部の全生徒が地域に副学籍を持つ学校ですので、新型コロナの今後の状況にもよりますが、来年度は工夫しながら交流活動を再開、充実していけたらと思っています。</p> <p>・地域資源として「学校からのお便りやホームページ等で、学校の様子が伝わっている」の項目で高い評価をいただきました。本年度は、4月当初から休校を余儀なくされたため、登校できなくてもできるだけ学校生活を身近に感じてもらうため、ホームページのあり方を早期に見直し、県下の養護学校の中でも特にホームページの学習コンテンツの充実を図ってきました。今後も、PTAメールを活用した早目の情報提供や、ホームページの充実、各学級や学年などを通してご家庭との連携を深めてまいります。ご意見やご希望がありましたら忌憚なく学校までお寄せください。また、今後休校になっても困らないよう学校ではリモートによる学習環境整備を進めておりますので、ご家庭でもそれを受け取るためのWi-Fi環境整備などにご協力いただけるとありがたいです。</p>								